

火山活動の恵みを受けた地

多くの人は、火山による「恩恵」と聞いて首をかしげることでしょう。しかし、それがまさに北海道を表す言葉なのです（直訳は『それがまさに北海道での状況なのです』）。日本の国立公園のほとんどには火山がありますが、これはなにも公園を訪れる人々が火山について学びたいと思っているからではなく、火山活動の恵みを受けた土地に美しい森林や湖、川などといった自然保護区に適した環境が広がっていることが多いからなのです。そこには様々な動植物が生息しており、訪れた人々を国立公園のあるべき姿と共に迎えます。支笏洞爺国立公園も例外ではありません。

ガラスでできているのかと思うほどの透明度を誇り、目を見張るような青色をした湖のすぐ側には、青々と茂った手つかずの森があります。ここには火山活動によってほんの数十年前に生み出された温泉と、より長い歴史を持つ温泉がありますが、興味深いのは、地上の美しい冷水の湖の調和が、地中にある大きな熱水の塊によって保たれているということです。

日本列島の全ての島々には長い火山活動の歴史がありますが、この歴史は、北海道においては決して過去のものではありません。大規模な噴火が今世紀にも発生しているほか、前世紀には複数の噴火が起こりました。有珠山は世界で初めて噴火のタイミング予測が行われ、住民の避難に備えた火山となったことから、人々は火山を災害をもたらすものとしてただ恐れるのではなく、自然の一部として敬うようになりました。これも外部の人にとっては奇異に聞こえるかもしれません。誰が好んで活火山の近くで暮らそうというのでしょうか？しかし実際のところ、支笏洞爺国立公園周辺の町の多くはこの状況になんら不自由していないどころか、火山と共存してきた自分たちのルーツを大切にしているのです。

この「火山との調和ある共存」という前向きなアプローチが北海道特有のものと言えるかはわかりませんが、この土地の特徴であることに間違いはありません。そして、この美しい土地ほど自然の力の影響がはっきりと表れる場所はありません。火山活動は煙や灰の柱を作り、まるで子供の花火の球のようなバスケットボール大の岩石を無数に吐き出すだけでなく、地形を描き変え、小さな山々やありがたい温泉を新たに作り出してくれます。

この美しい自然や、時として恐ろしい顔を見せる自然と人間との共存の様子を見たい方は、札幌あるいは新千歳空港から少しのドライブでその希望が叶います。公園のどちら側を訪れるかに応じて、散策には1時間から2時間半を要します。